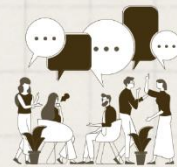


死刑制度を考える



Think ● …考えるコーナー(5分~10分) / Work ● …作業するコーナー(10分~20分)

1年[]組[]番 名前[]

(I) 死刑制度の現状

1980年代以降、世界では死刑廃止国が急増している。一方で、日本は死刑制度を存続させている。2009年から裁判員制度が始まり、私たちは誰もが「被告人を死刑にするかどうか」という究極の判断を迫られる可能性がある。この制度を維持すべきか廃止すべきか。多様な意見から、司法の在り方や人の命について考えてみよう。

現時点での立場 → (存続すべき ・ 廃止すべき)

理由

■ 死刑制度について

資料集 78-79 を参照しながら、それぞれの立場でどんな意見があるかを考え、以下の表をまとめてみよう。

存続派	論点	廃止派
	犯罪の抑止力	
	遺族の感情	
リスクはあるが、それは死刑以外も同じ。起こらないように慎重な審議に努める。	誤判のリスク	一度執行してしまえば取り返しがつかない。可能性が0でない限り、死刑はやめるべき。
	犯人の更生	
	世論	

存続派の根拠例

①遺族の心情

「これほど残虐なことをしても、何の反省もせず、自分のことばかり考えている被告人は、社会に戻ってもまた同じことを繰り返すと思います。…これからの被害者を出さないためにも、被告人は死刑しかないと思います。(女児殺害事件の遺族の言葉)

②死による贖罪

「もし彼が人を殺害したのであれば、彼は死なねばならない。この際には正義を満足させるに足るどんな代替物もない。」(カント)

③犯罪抑止論

「刑罰の目的は、感覚ある存在である人間を苦しめ苛むことではない。すでになされた犯罪を帳消しにすることでもない。…刑罰の目的は、その犯罪者が仲間の市民たちに対して再び害を与えるのを阻止するという、そして誰か他の者が同じことをしないように囂るということ、これ以外ではありえないはずだ。」(ベッカリーア/法学者)

廃止派の根拠例

①誤判可能性論

「死刑事件については、たとえ「百人」「千人」に一人であろうとも、いやしくも無実の者の処刑が許されてはならないのではないのでしょうか。ということは、とりもなおさず、死刑を廃止する以外にないということだと思うのです。(団藤重光/法学者)

②国際世論による議論

「例えばフランスでは1981年に死刑を廃止しました。その時の世論調査では死刑賛成の方が多数派であったものの、25年たった現在では反対派の方が多くなりました。死刑に頼らないそれらの国では、処罰感情から犯罪者の生命を奪うのではなく、別の方法によって罪を償わせているのです。」(人権団体)

③国家による殺人

「人は自らを殺す権利がないのと同様に、そのような権利を他人に譲渡することはできない。」(ベッカリーア/法学者)

(II) 死刑制度に対する考え

Work👁️ 死刑制度について考える【グループワーク】

これまで整理した情報や、根拠の例を基に、死刑制度についての考えを深めていきましょう。

観点① 個人や社会の幸福につながるか？

[自分の意見]

[他者の意見①]

[他者の意見②]

観点② 国家が人命を奪うことは正義といえるか？

[自分の意見]

[他者の意見①]

[他者の意見②]

観点③ 冤罪の危険をどう考えるか？

[自分の意見]

[他者の意見①]

[他者の意見②]



最終的な立場

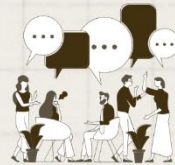
学びや議論を通して、最初の立場から考えは変わりましたか。改めて立場を選択し、理由をまとめましょう。

(存続すべき ・ 廃止すべき ・ どちらともいえない)

理由

まとめた理由をロイロノートに転記して提出してください。その際、立場が一目でわかるように、存続派は水色・廃止派はピンク色・どちらともいえない人は薄黄色のカードで提出してください。

死刑制度を考える



Think ●…考えるコーナー(5分~10分) / Work ●…作業するコーナー(10分~20分)

1年[]組[]番 名前[]

(I) 死刑制度の現状

1980年代以降、世界では死刑廃止国が急増している。一方で、日本は死刑制度を存続させている。2009年から裁判員制度が始まり、私たちは誰もが「被告人を死刑にするかどうか」という究極の判断を迫られる可能性がある。この制度を維持すべきか廃止すべきか。多様な意見から、司法の在り方や人の命について考えてみよう。

現時点での立場 → (存続すべき ・ 廃止すべき)

理由

■ 死刑制度について

資料集 78-79 を参照しながら、それぞれの立場でどんな意見があるかを考え、以下の表をまとめてみよう。

存続派	論点	廃止派
死刑がなくなれば、凶悪犯罪が増える恐れはある。抑止力になっている。	犯罪の抑止力	死刑が必ずしも抑止力に直結しているともいえない。日本も死刑廃止国も殺人発生件数で見ると同様の傾向がある。
残された遺族の無念を晴らすには、同じ死をもって罰するしかない。	遺族の感情	生涯かけて罪を償う方法もある。犯罪者が死んだとしても、失われた命は返ってこない。
リスクはあるが、それは死刑以外も同じ。起こらないように慎重な審議に努める。	誤判のリスク	一度執行してしまえば取り返しがつかない。可能性が0でない限り、死刑はやめるべき。
更生できない人も少なからずおり、凶悪犯罪の再犯を防止する方が優先されるべき。	犯人の更生	どんな人でも更生の可能性はあるので、国の責任としてそれを目指すべき。
約8割が賛成しており、制度自体に強い支持がある。	世論	国際的には死刑廃止の流れであるし、死刑囚の冤罪事例もあるため廃止すべき。

存続派の根拠例

①遺族の心情

「これほど残虐なことをしても、何の反省もせず、自分のことばかり考えている被告人は、社会に戻ってもまた同じことを繰り返すと思います。…これからの被害者を出さないためにも、被告人は死刑しかないと思います。(女児殺害事件の遺族の言葉)

②死による贖罪

「もし彼が人を殺害したのであれば、彼は死なねばならない。この際には正義を満足させるに足るどんな代替物もない。」(カント)

③犯罪抑止論

「刑罰の目的は、感覚ある存在である人間を苦しめ苛むことではない。すでになされた犯罪を帳消しにすることでもない。…刑罰の目的は、その犯罪者が仲間の市民たちに対して再び害を与えるのを阻止するという事、そして誰か他の者が同じことをしないように囂るということ、これ以外ではありえないはずだ。」(ベッカリーア/法学者)

廃止派の根拠例

①誤判可能性論

「死刑事件については、たとい「百人」「千人」に一人であろうとも、いやしくも無実の者の処刑が許されてはならないのではないのでしょうか。ということは、とりもなおさず、死刑を廃止する以外にないということだと思ふのです。(団藤重光/法学者)

②国際世論による議論

「例えばフランスでは1981年に死刑を廃止しました。その時の世論調査では死刑賛成の方が多数派であったものの、25年たった現在では反対派の方が多くなりました。死刑に頼らないそれらの国では、処罰感情から犯罪者の生命を奪うのではなく、別の方法によって罪を償わせているのです。」(人権団体)

③国家による殺人

「人は自らを殺す権利がないのと同様に、そのような権利を他人に譲渡することはできない。」(ベッカリーア/法学者)

(II) 死刑制度に対する考え

Work👁️ 死刑制度について考える【グループワーク】

これまで整理した情報や、根拠の例を基に、死刑制度についての考えを深めていきましょう。

観点① 個人や社会の幸福につながるか？

[自分の意見]

[他者の意見①]

[他者の意見②]

観点② 国家が人命を奪うことは正義といえるか？

[自分の意見]

[他者の意見①]

[他者の意見②]

観点③ 冤罪の危険をどう考えるか？

[自分の意見]

[他者の意見①]

[他者の意見②]



最終的な立場

学びや議論を通して、最初の立場から考えは変わりましたか。改めて立場を選択し、理由をまとめましょう。

(存続すべき ・ 廃止すべき ・ どちらともいえない)

理由

まとめた理由をロイロノートに転記して提出してください。その際、立場が一目でわかるように、存続派は水色・廃止派はピンク色・どちらともいえない人は薄黄色のカードで提出してください。